

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年3月25日

計画の名称	1 健康で、安全・安心な暮らしを支えるまちづくり									
計画の期間	平成23年度～平成26年度（4年間）	交付対象	掛川市							
計画の目標	①（活発な交流と協働の創出につながる）豊かな自然と歴史・文化を活かした”集い・憩い・ふれあい・にぎわい”の場をつくる ② 市民の健康を守る医療拠点を核とした快適な住環境を整備する ③ 市民の安全な暮らしと健康増進に寄与すると共に、まちのにぎわいをうむ歩行空間を確保する									
計画の成果目標（定量的指標）	① 市街地から郊外の農村集落まで、地域それぞれの特徴が活かされた快適な居住環境で暮らしていると感じている市民の割合を32.6%（H23）から37.6%（H27）に増加 ② 病気や障害、高齢者になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていけると感じている市民の割合を35.5%（H23）から40.5%（H27）に増加 ③ 掛川市安心な歩道づくり対象路線の計画延長に対する整備延長の割合を73%（H23）から81%（H27）に増加									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H23当初） 中間目標値（H25末） 最終目標値（H27末） 備考						
	市民、住民等に対してアンケート調査等を実施する。	32.6%	－	37.6%						
	市民、住民等に対してアンケート調査等を実施する。	35.5%	－	40.5%						
	掛川市安心な歩道づくり対象路線の計画延長に対する整備延長の割合	73.0%	－	81.0%						
全体事業費	合計（A+B+C）	2,048百万円	A	1,575百万円 （うち提案事業分 120百万円）	B	473百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 （A（提案分）+C）／（A+B+C）	5.9 %

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期 平成27年度 公表の方法 掛川市ホームページにより公表
掛川市において評価を実施	

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市町村名	施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-A-1	都市再生整備計画	一般	掛川市	直接	掛川市	緑の精神回廊地区都市再生整備計画事業	道路、公園等 A=210ha	掛川市						286	別添1
1-A-2	都市再生整備計画	一般	掛川市	直接	掛川市	地域医療再生拠点地区都市再生整備計画事業	道路、公園等 A=117ha	掛川市						1,289	別添2
合計												1,575			
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 （延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-B-1	道路	一般	掛川市	直接	掛川市	杉谷家代線道路改良事業	歩道整備 L=490m W=12m	掛川市						155	
1-B-2	道路	一般	掛川市	直接	掛川市	病院北通り線道路改良事業	道路改良 L=458m W=12m	掛川市						318	
合計												473			
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
合計												0			

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考
1-B-1	緑の精神回廊地区都市再生整備計画事業(1-A-1)と一体的に実施することにより、歩行者や自転車が安全に利用でき、人にも環境にも優しい道路環境の整備ができる。											
1-B-2	緑の精神回廊地区都市再生整備計画事業(1-A-1)と一体的に実施することにより、歩行者や自転車が安全に利用でき、人にも環境にも優しい道路環境の整備ができる。											

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		本計画地では、掛川城下の歴史と中心市街地のにぎわいの融合したまちづくり、中東遠総合医療センター及び希望の丘周辺の新たなまちづくりをとおして、生活満足度が向上している。中東遠総合医療センター及び希望の丘の整備による、高次医療と社会福祉の中核が整った市街地形成により、住民の安心感が向上している。杉谷家代線・病院北通り線道路改良事業により、歩行者や自転車安全に利用できる道路環境が整備された。			
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標	37.6%	目標と実績値に差が出た要因	目標値は、市全域を対象とした市民意識調査の「掛川市は、計画的な土地利用や都市計画により、住宅・商業・農業・工業などがバランス良く配置されているまちだと感じている市民の割合」を基に設定しており、市全域の調査結果では、東日本大震災が発生した平成23年をピークに平成27年度で25.2%と減少傾向にある。一方、平成27年度に本計画地を対象としたアンケートの設問「以前に比べ、地域それぞれの特長が活かされ、住、商、農、工業地区がバランス良く配置されているまちだと思う。」では、33.7%と市全域の意識調査結果を大きく上回る結果となったことから、総合病院の建設、福祉施設の誘致、工業団地の造成、それらに通じる道路整備等の本計画地における整備効果が確認できた。
		最終実績値	25.2%		
	指標②	最終目標	40.5%	目標と実績値に差が出た要因	目標値は市全域を対象とした市民意識調査の「掛川市は、病人や障がい者、高齢者になっても安心して暮らしていけると感じている市民の割合」を基に設定しており、市全域の調査結果では、東日本大震災が発生した平成23年をピークに平成27年度で32.1%と減少傾向にある。一方、平成27年度に本計画地を対象としたアンケートの設問「以前に比べ、病人や障がい者、高齢者になっても安心して暮らせるまちになったと思う」では、44.2%と市全域の意識調査結果を大きく上回る結果となったことから、総合病院の建設、福祉施設の誘致やそれらに通じる道路整備による効果の発現が確認できた。
		最終実績値	32.1%		
	指標③	最終目標	81.0%	目標と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	81.0%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> 掛川城周辺では歩道や駐車場整備により、歴史的施設が保存され趣のある城下町で多くの市民が散策を楽しみ、身近の生活空間にも歩道が整備され、アンケートでは歩行の安心感が増したと5割以上の人が感じていることが判明した。 本計画地対象アンケートでは「以前に比べ、区域内の整備が進み住みやすくなった。」と51.6%が回答し、基盤整備における満足度の高さがうかがえる。 			
3. 特記事項 (今後の方針等)					
<ul style="list-style-type: none"> 計画地におけるアンケート調査では、市街地整備の充足度はまだまだ足りないとのことであり、高齢化社会における様々な弱者にも住みよいまちづくりが課題として挙げられる。また、整備計画の進め方として、PDCAを確実に回して行くことが必要である。 					

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	1 健康で、安全・安心な暮らしを支えるまちづくり	交付対象	掛川市
計画の期間	平成23年度 ~ 平成26年度 (4年間)		

